

チータムズ図書館とその建物

インフォメーション・ノート 1

チータムズ図書館へようこそ、どうぞお楽しみください。館内での撮影は出来ませんが、本に触らないでください。

どの様にして、この図書館は現在の姿に成ったのでしょうか

地元の大成功した事業家ハンフリー・チータムの遺言状の中に残された基金を元に作られました。彼は1580年にマンチェスターの近くに生まれました。

ハンフリー・チータムは1600年代に兄のジョージと共にビジネスの世界に入りました。彼らは羊毛を買い、毛糸や羊毛製品を作り、地元やロンドンで販売しました。彼らは後によりリスクは高い物の、儲けが大きい麻と綿によるファスチャン織り（コール天の類）製品の製造を事業に追加し、大成功を収めました。ハンフリーはジョージの死後この事業の全てを手に入れ、其の財力を事業の拡大に使用し他の事業家や富裕な地主等の為の金融サービスの提供を行いました。

こうして彼は地元では突出した存在に成って行き、そしてハイ・シェリフ（州長官）《之はマンチェスター、ランカシャー北部の町で行政上最も重要な地位》に指名されました。彼は外交的、社交的 생활が好きでは無く、国王陛下から直接授かる筈であった、最高名誉の《ナイト》の称号をも辞退してしまいました。

彼の情熱は代わりに慈善事業へと向けられ、特に人々がより高い優れた学問と技術を獲得する事を可能にする計画に注がれました。

彼の晩年には貧しい少年達の為の学校と彼ら全てが使う事が出来る図書館の設立を望みました。彼はこの設立計画を作り上げましたが、1653年、其の実行を見る前に他界しました。彼は遺言で現在の価値で言う処の3千万ポンド（約4千5百万ドル）を此の為に残しました。之の計画は彼の24人の法定代理人達に残され、彼らの手によって実行に移されました。

現在の図書館のある建物は晩年のハンフリー・チータムの生活を知る事が出来、そして彼が望んだ学校と図書館が併設されていた所です。

このインフォメーション・ノートの後の部分でこの建物についてと何故知る事が出来るかをお話ししましょう。尚、学校についての話はインフォメーション・ノート2に有ります。

図書館—目的と内容

法定代理人達はハンフリー・チータムが残したお金を使って、建物に図書館を増設し書籍の収集を始めました。図書館の建築様式はオックスフォード大学やケンブリッジ大学の図書館と似通った様式です。図書館は1653年に開館され、英語圏に於ける、今も残る公共の閲覧図書館（貸し出しはしない）としては最も古い物です。図書館は沢山の希少価値の有る古代言語で書かれた書籍や書類を所蔵しました。少数の英語で書かれた原本や原書類も含まれていました。神学、法学、哲学、科学、歴史、古代文明期の文献等、初期の範疇の物が網羅されていました。初期関連の書物の中には百科事典や辞書なども含まれていました。書物はその専門分野での知識を得る為に必要かつ興味を持つ人達の為に選ばれました。彼らは主に医者、法律家、宗教家達でした。

貴方は図書館が2階に位置するのをご覧になる事でしょう。之は本が湿気によって損なわれることの無い様に配慮された物です。本棚は地元の工芸家リチャード・マーチンスクロフトの手によるオーク材製です。初期段階では書物は泥棒除けに鎖で繋がっていました。本はその本の近くの机の上に取り出し、その場所で読み且つ学習する様に成って居ました。貴方は24脚のポータブルのオーク材の椅子が用意されているのをご覧になるでしょう。読者は勉強に必要とする本が有る側廊にその椅子の一つを取って使いました。1740年までには蔵書は増え、刊行物は書棚を高くする必要性が出て来ました。そして改造に当たって、本の鎖は取り除かれ、蔵書の安全の確保の為に各側廊には扉が取り付けられました。図書館に隣接した法定代理人達のミーティングルームは増築され図書閲覧室として使われる様になりました。ハンフリー・チータムの遺産の一つである「初期の鎖本」の幾つかを其処に見る事が出来ます。

1800年代に入ってマンチェスターは急速に拡大し、新しい図書館が設立されていきました。チータムズ図書館の法定代理人達は地域の歴史やマンチェスターやその近郊特有の自然、或は人工的な事共が書かれた書物に焦点を当てて収集する事に決めました。

鎖本に関して付け加えるならば、図書閲覧室には他にも興味深い物が有ります。暖炉の上には作者不明のハンフリー・チータムの肖像画が有ります。暖炉の上の彫刻を施した装飾帯もご覧になれます、これは1700年代に創られた物と思われれます。中央に位置する紋章はハンフリー・チータム家のシンボルです。其々の側には象徴的な炎を冠した円柱が有ります。これ等は「学問・学識」を象徴して居ます。その左側の《雄鶏》はハンフリー・チータムの商人活動を表した物と思われれます。右側の伝令鳩はキリスト教の憐れみと自己犠牲を表す古代のシンボルです。展示品の中には彫り物の山積みの本も有りますが、之も又「学問・学識」のシンボルです。又1600年代中期に法定代理人達によって使われていた大型のテーブルと24脚の赤革製の椅子もご覧になれます。3面にテーブルやベンチが有るアルコーブは沢山の来訪者の興味を引いて居ます。図書館の有名な来訪者の中にはフレデリック・エンゲルスやカール・マルクスも含まれます。フレデリック・エンゲルスはマンチェスターの工業化が非常に速い速度に進んだ当時、マンチェスターに住み、仕事をして居ました。重要な結果としてそれは貧困と富裕の格差の極端な拡大を市民にもたらしました。エンゲルスの友人であったカール・マルクスは彼を訪れ、チータムズ図書館で此の「極端な格差」と密接な関連が有る彼の仕事の為の本を読みたいと思いました。2人の男達は1845年から数回に

渡ってここを訪れ、此のアルコーブで彼らの政治的、経済的考え方について発展させました。エンゲルスは1870年にも訪問して居ます。

貴方が図書館に入られる時、或は出られる時、印刷機を目にする事でしょう。之は現在貴方が目に出来る殆どの本を印刷するのに使われた型です。

建物

図書館の在る建物は1420年代に建てられました。初期の建物は2つの川に挟まれた立地を利用して建てられました。初めは、時を異にして最も富裕で権力の有るグレリー家とデ・ラ・ワー家が所有する城として、そして次には大邸宅としてその居留地に建てられました。この館と教会（現在のマンチェスター大聖堂）周辺は後に街が拡大していく際の中心的核を成して居ました。1421年、教会の司祭であり、教会の責任者であったトーマス・デ・ラ・ワーは彼の兄の死亡により館を相続しました。彼は司祭達や学者達（clerks）が学習し、礼拝を共に行う事の出来る様に館と教会をつなげて大学様式にすることを望みました。館は概ね再築され増築されました。之により8人の司祭達と4人の学者達（clerks）と教会の礼拝で歌う6人の音楽家達そしてこの共同体内の世話をするスタッフ達の為の宿泊設備が用意されました。通りから貴方がアーチを潜り抜ける時に前方にご覧に成れる地元産のピンク・コリーハースト砂岩の建物は大凡全てこの時代の物です。建物は大学と教会、カレッジ教会（独立した大学学寮を持つ教会）として知られていました。大学に於いて、首席司祭（学長）は現在の図書館の閲覧室に当たる所を個人宿舎として使って居ました。8人の上級司祭達は現在の本棚の在る辺りに個室を持って居ました。4人は1階に、他の4人は上の階に住んで居ました。貴方が中庭から図書館に入られる時に1階に在る4部屋のドアをご覧に成るでしょう。又中庭の外側に共同体の為の井戸もご覧に成る事でしょう。

時には、大学が如何であったか他の部屋を見る事が出来ます。しかし頻繁にコンサートやミーティング或はグループなどによって事前予約されているので、保証の限りでは有りません。ダイニングルームとして使用して居たバロニアル・ホールはボランティア・ガイドの案内で内部をご覧になれます。この部屋は、17世紀に取り付けられ、後に大きくした暖炉を除いて、概して1420年代初頭の物が変わらずに残されています。バロニアル・ホールの近くの昔のキッチンは今アソシエーション・ルームとして知られています。貴方は当時料理がされた1660年代の暖炉や調理器具類をご覧になれます。元は学長の宿舎として使われていた第3ルームにも入る事が出来るでしょう。之は現在監査室として知られています。ここには幾つかの優れた建築的特徴を持つ物、特に天井や上質の家具類が含まれています。ここにはエリザベス女王1世に依って大学の学長に指名された数学者のジョン・ディーの肖像画が有ります。

大学が生き続けたこの年月の間に、イギリスにおけるキリスト教の信仰の道はその祈りと忠誠の対象をローマ法王からイギリスの王或は女王に変わると言う非常に大きな変化を余儀なくされました。時ある毎に従来の祈りの形に戻る複雑な過程でした。建物の所有権は更に代わり、デ・ラ・ワー家からスタンレー家に移りました。頻発した政治的衝突はやがて内乱に発展しました。スタンレー家は敗者側に加担し建物は戦禍にダメージを受け、王の代理人の手によって取り上げられました。

その時、ハンフリー・チータムはこの建物を貧しい少年達の為の図書館と学校にするべく買う事を決意しました。

2015年 7月

チータムズ図書館は此のインフォメーション・ノートの日本語翻訳に関し、御協力下さった郷司三保子さんに感謝の意を表します。